

校報 海士



校報「海士」第三五〇号
 発行 平成二四年 七月二〇日
 編集 海士町立海士小学校

夏に学び・夏に鍛える

校長 宇野 和福

四月九日にスタートした七一日間（一年生は六九日間）の一学期が終わりました。

お陰様で、誰一人として長期欠席や事故などもなく、教科の学習はもちろんのこと、保護者や地域の皆様に支えられながら、いろいろな行事や活動を通して数多くの貴重な体験を積み重ねることができました。

さて、子ども達は明日から三七日間の夏休みに入ります。子どもたちの生活は家庭や地域が主となります。そこで、この休みを「子ども達を家庭や地域で鍛える」好機と捉えていただき、保護者・地域の皆様に次のお願いをさせていただきます。

『キーワードは「自立」』
 四つの「過剰」（世話・授与・指示・受容のしすぎ）と四つの「不足」（自



然接触体験・自発的活動・難体験）が子どもの「自立」を妨げているとの指摘もあります。「自立」できるとは、自ら課題を設定し、自ら解決策を講ずることを指します。この休み、我が子の「自立」のたのめ、予防注射を打って貰いたいと思います。（二学期に成長した姿に会えることを願って！）

体力向上の推進

体育主任 山下裕次

子どもの体力は、過去一〇年間で少しずつ改善の傾向があります。ピークであった一九八五年と比べると大きく下がっています。加えて、運動を「する子ども」と「しない子ども」の体力が大きく開いています。これも問題となっています。

これは全国的な問題ですが、本校の子どもにもあてはまるところがあります。子どもを取り巻く生活や環境は大きく変化しています。大きく「生きる力」の根底となる体力の向上を目指し、本校では全校体制で取り組んでいます。

体の動かし方や体力の高め方がわかり、主体的に体力向上に向かっていく授業づくり

六月に行なった新体力テストの結果をもとに、五・六年生は体育の授業で、自分の体力を知り、体力を高めていく学習を行いました。島根県全体の傾向でもありますが、子どもたちの体力の現状として「筋力や筋持久力」「柔軟性」に課題があることが分かりました。こ

「パワースローイング」マットにボールを当てて台車の移動距離を計測



「しゃくとりむし」2枚のぞうきんの上に手足をのせて、よ～いドン



の二つの体力を高めていくために、子どもたちが意欲的に取り組める運動を考え、距離や時間などで記録を数値化できるようにしました。

自己記録更新を目指して挑戦する姿、ペアで協力しながら記録・応援・助言する姿が見られました。結果、五時間の授業ではありましたが、二つの体力にかかわる種目で記録を伸ばすことができました。

大切なことは、五・六年生として自分の体力の課題が分かり、高めていくために日常どのような取り組みでいくのかを考え、つなげていくことです。家族の協力があること、さらに効果的できると思っています。

読書活動の推進

今年度、「学校図書館の活用」と「読書活動の推進」に力を入れて取り組んでいます。

読書活動は、これまでの朝読書やボランティアによる読み聞かせ（金曜日）の他に、高学年が交代で低学年に読み聞かせする「ホトリリーディング」（木曜日）を行っています。いろいろな人に読み聞かせをしてもらったり、読書をする時間を確保したりすることで、読書の習慣が身につく、本の好きな子が増えているようです。

また、ハッピーブックスタディー委員会（図書委員会）では、今年度「一年間で一人四〇冊以上本を読もう」という目標を立てましたが、一学期末で達成した児童が一〇名もいました。高学年は本のページ数が多いのでまだ達成者はいませんが、二学期に達成できそうな子がたくさんいます。

海士小図書館

1学期の利用状況（7/17現在）

4月	229冊
5月	314冊
6月	338冊
7月	172冊
合計	1053冊
1年	270冊（平均39）
2年	262冊（平均44）
3・4年	184冊（平均46）
5年	166冊（平均18）
6年	171冊（平均19）
全校平均	30.1冊

<40冊達成者>

1年		
波多 恩	46冊	
澤谷ゆな	50冊	
和泉さら	48冊	
2年		
木村美佑	62冊	
藤田帆乃夏	47冊	
浜崎遥香	50冊	
村尾優衣	45冊	
3年		
飯古 樹	59冊	
藤井杏奈	58冊	
澤屋 梓	41冊	

おめでとう
 次の目標は
 100冊だ！

